

# 風の谷 びゅう VIEW

社会福祉法人 風の谷  
 相模原市中央区田名7236-3  
 発行責任者 政野 光廣  
 042-760-1033  
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>  
[e-mail:ykoubou@pastel.ocn.ne.jp](mailto:ykoubou@pastel.ocn.ne.jp)



特集ページに掲載しております「Lake Side Cafe.」の  
 ダムカレーと宮ヶ瀬ダムの写真です。



ダムの放流と合わせてカレーの放流もお楽しみください☆



本年もよろしくお願ひ申し上げます

【2019年 新春号】

- |          |       |                        |     |
|----------|-------|------------------------|-----|
| ◇ 巻頭文    | P 2   | ◇ それぞれ～自閉症者との信頼関係について～ | P 3 |
| ◇ 「活動紹介」 | P 4・5 | ◇ カラフル便り               | P 6 |
| ◇ ヘルパー便り | P 7   | ◇ 後援会のページ              | P 8 |

## 新年のご挨拶

理事長 政野 光廣

新年あけましておめでとうございます。

平成31年の新春を迎え、皆さまには新たな気持ちでご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は社会福祉法人風の谷に多大なるご理解とご支援を賜り心よりお礼申し上げます。

昨年は「風の谷」にとりまして法人設立20周年の節目にあたり、7月には多くの支援者、関係者の皆様と共に記念式典、祝賀会を開催することができました。設立20年の総括とこれからの法人の目指す姿を皆で確認できた式典となりました。私たち法人が多くの人たちに支えられ、励まされて20年を迎えることが出来たこと、また、職員一人ひとりの研鑽の結果、より質の高い支援に結びついていることを何よりも誇らしく思いました。

さて、本年度は新たなスタートの年として、各事業の着実な運営に注力するとともに、特に念願である人材確保のため、職員採用活動に注力していきたいと思っております。昨今の求人難の中で、既存事業の充実と更なる事業展開を図るには新たな職員の確保が不可欠です。ご存知のように昨年の9月に開所しましたグループホーム(名称:カラフル 定員:10名)も残念ながら職員確保が困難等の理由で現員は5名で運営せざるを得ない状況にあります。

グループホームは利用者にとって親なきあとの生活の選択肢の一つでもあります。また、高齢となった親たちの負担の軽減と利用者の安定した生活の場の確保にも繋がる事業です。

グループホーム(カラフル)につきましては、なんとしても支援職員の確保と育成により、定員10名での運用を目指したいと考えております

また、今年は第一やまびこ工房(本棟)の大規模修繕工事が予定されています。築20年がたち、利用者を育ててきた建物もだいぶ傷みが見受けられます。新たな安全対策などを含め大規模修繕工事を春先にかけて実施予定です。

本年度も今までに蓄積した力を次の支援者育成と支援内容の充実に活かし、事業運営、法人運営に結びつけてまいります。私が今までの関わりの中で大切にすべきと思うことは利用者一人ひとりに対して、共に生きる人としての尊厳を大切にすること、そして各人の個性に合わせた支援サポートを追及することにつきます。

風の谷の運営は「利用者の一人々に寄り添ったきめ細かな支援」の充実に推進することにあります。各利用者の支援を確認し合い、利用者満足度の高い法人、施設運営を目指していきます。

最後になりましたが、皆様方のご健康とご多幸を心からお祈りいたすとともに、一層のご支援とご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

## 今年もやります！地域交流バザー！！

日時：平成31年6月2日（日曜日）予定

会場：やまびこ工房

皆さまのご来場お待ちしております！



## それぞれ

### ～自閉症者との信頼関係について～

信頼関係。それは、支援者側の思い込みかもしれないが、不安な時に特定の支援者を探すことはあるし、特定の支援者がいると落ち着いて過ごされることがある。しかし、その言葉の意味は幅広い。不安を解消してくれる支援者、楽しい気分させてくれる支援者、そばにいてくれると落ち着ける支援者は、一人の自閉症者にとって、同一の支援者ではないことが多い。

支援者になると、どうしても労働力になるためのことを覚える。それは、それほど時間を要せず、身につけることができる。利用者への食事の提供の仕方、散歩時の留意点、作業提供内容等を覚えて実施できれば、仕事としては問題ない。ご家族からの要望を重視して支援を行えば、ご家族からは信頼される。そうすると支援者は信頼関係が築けたと錯覚してしまいがちだが、言葉や行動で気持ちや感情を表現できる利用者とは上手く行かないこともある。相性が悪いだけと思えば、信頼関係を築くことはできない。

どうしたらいいのだろうと思えた支援者は、自閉症について学ぶ。自閉症といっても抽象的にしか表現できないので、とかく具体的な支援方法に関心が移ってしまう。視覚的に優位とのことだから絵カードを使ってみたり、耳を塞いでいることが多いからイヤーマフ（音の刺激を弱くする耳あてのようなもの）の着用を勧めたり、見通しがないと不安になりやすいので予定表を作成し、提示したりする。しかし、自閉症者一人一人異なる認知に基づいた支援ではないので、支援用品に頼ることになる。そこでの信頼は、必要なものを作ってくれたり、持ってきてくれるという意味なのかもしれない。

一方、自閉症者に好かれないと思った支援者は、個々の好みや苦手なことを知り、支援する。電車が好きだというだけでなく、もっと詳しく知る。どんな電車が好きなのかを知り、それに関する余暇を提供したり、一緒に博物館に行く。一方、苦手なことも理解し、避けるように支援する。犬が苦手だけでなく、大きな犬は怖がらないけど、小さな犬を怖がるなど詳細を理解し、小さな犬が近づいた時は、横断歩道を渡るとかの配慮をする。そのような支援は、人としての信頼関係への礎となる。しかし、これも好みを押し付けになってしまうこともある。エスカレーターが好きだという。確かにエスカレーターがあると向かって行く。ただし、階段が動いているだけに、「乗って」と言われている感じがしなくもない。見ると乗らなくてはと思わせてしまう力があるかもしれない。好みを把握するにしても自閉症理解も必要になってくる場合が多い。

ここまで取り組めるようになって自閉症支援者として一人前として扱われがちだ。しかし、自閉症者固有の困り感はその先にある。Aさんは、言葉を覚える力が優れているので、歌の歌詞を覚えるのは得意だけど、誰かと会話をすると他者から言われた言葉と自分が発した言葉とが区別されずに覚えてしまい、叱責されたり注意を受けると、今後どうすればいいかがわからなくなり、混乱してしまう。Bさんは、漢字を覚える能力は高く、カレンダーサヴァン（数十年前の日にちに対し、調べなくても何曜日かがわかる）であるが、顔を覚えることが苦手なため、名前と誕生日に執着してしまう。このように一人一人異なるアンバランスさを持っており、長年関わった支援者でもわからないことが多い。ただこの障害の痛みを感じる時に、様々なトラブルはあるかもしれないが、それでも必死に生きている姿に感銘する。その感銘は、どうしても振る舞いや言動に表れ、関係性がより良いものになっていく。そして、さらにその先は、利用者との関係性を超えたところにあるように思う。（薬師丸）

## 活動紹介

宮ヶ瀬ダム Lake Side Cafe. 

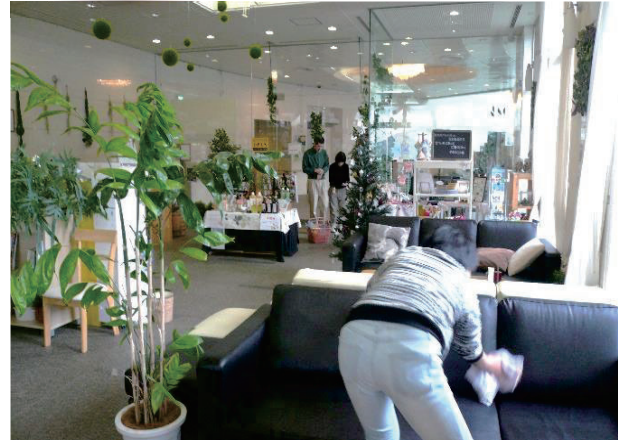
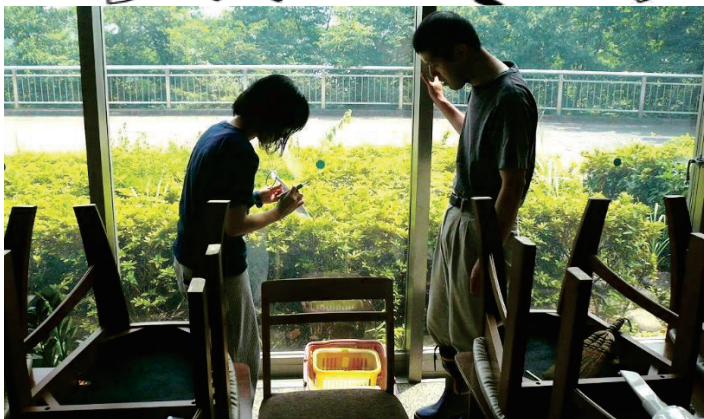
愛川町、宮ヶ瀬ダム内にある水とエネルギー館。  
 その中にある Lake Side Cafe. (レイクサイドカフェ)  
 にて、昨年7月より清掃活動をはじめました。

ご紹介を受けて週一回、開店前の清掃のお手伝いをし  
 ており、利用者の地域参加の場となっています。



やまびこ工房外での活動や、自主製作品を見て頂くことを通  
 して、風の谷が地域の方と繋がる機会になると考えています。

是非、皆さまも宮ヶ瀬を訪れる機会がありましたら足をお運  
 び下さいませ。とても素敵な場所です。



店内の出入り口のドア拭き、フロアの掃除機が  
 け、テーブルや椅子拭き、店外の窓掃除、クモの巣  
 取りなどを行っています！

参加している利用者は、現在3名。ご紹介して下  
 さった方のアドバイスやお店の方のご協力もあり、  
 回数を重ねるごとに上達し、清掃する箇所も広がっ  
 てきています。また、昨年10月よりご厚意で店内  
 に自主製作品を置かせて頂いています。



受注

## 緩衝材



(青山ゴムさんより)

今回は、第二やまびこ工房で行なっている受注作業の1つをご紹介します。

作業の内容は、車の製造の過程で使用される緩衝材を14個数え、ベルトに通すというものです。この作業をわかりやすく伝えるために、作業を大きく2つの工程に分けて提供をしました。ひとつは緩衝材を14個並べる工程、もうひとつは緩衝材にベルトを通す工程とし、作業の流れを単純化し、それぞれ利用者にあった自助具等を作成することで多くの利用者に取り組んでもらうことができました。



ベルトの先に針金で写真のような自助具を取り付け、ベルトをスムーズに引き出せるよう工夫



紙の上に緩衝材を置くだけで14個数えられる自助具を作成



作業の進行がイメージしづらい利用者には、一連の流れがわかりやすいように支援者が隣につき、お手本となって一緒に取り組める環境の設定



受注作業に取り組むことで、普段行なっている自立課題とはまた違った達成感が生まれ、受注作業を進んで行なうようになった方や、受注作業を行なうことを目標にして1日の活動がスムーズになった方など…今までと違った作業内容や室内環境で、利用者の作業に対する意識が大きく変化していきました。

また、受注ならではの納期や製品管理等の緊張感や責任感が支援者側の姿勢も変化させていきました。単純な行程のように見えてもやはり初めはうまくいかず、それでも試行錯誤を繰り返しながら取り組んでいくうちにだんだんと出来るようになっていったことや、利用者が一所懸命に作業に取り組んでいる姿を見られたことをとても嬉しく感じ、その喜んでいる支援者の姿が達成感ややりがい、積極性に結びついていたと思います。

今回の取り組みは、そういった作業をするうえでの大切な部分を支援者に気付かせてくれました。また、この経験から受注作業に取り組むことの大切さを改めて実感することができました。

受注作業に取り組むことをイメージしながら自立課題を作成したり、日々の支援の中からヒントを見つけ出し、より幅広い受注作業を多くの利用者に取り組んでもらえるように今後も支援していきたいと思います。

# カラフル便り

～ついに開所！新しいグループホーム～

法人として2つ目のグループホームが2018年9月3日より開所致しました。この新しいグループホームはやまびこ工房と第二やまびこ工房の中間にあたる相模原市下溝の閑静な住宅地にあり、名前は「カラフル」といいます。2階建の素敵な建物にはやまびこ工房と第二やまびこ工房から現在5名の方が月曜日から金曜日まで同じ屋根の下で生活をしています。

開所する前、建物が出来上がったばかりの頃は、当然、中には何もなくてガラガラで寂しいものでしたが、リビングにテーブルやソファが運ばれ、各居室にご家庭からベッドやテレビなどが設置され、準備が進んでくると徐々にグループホームの中には生活の色が表れてきます。開所後は「きっとAさんはごはん前になるとこのソファに座って待っているのかな？」「Bさんはテレビに夢中で呼ぶまで出てこないのかな？」なんて、みなさんの生活をいろいろと想像しながら開所の準備をしていたことを憶えています。

いざ開所してみると、やっぱりBさんはテレビに夢中で、Aさんはごはん前になるとソファに座って、まだかまだかと待たれています。でも、他の方も一緒になってソファに座って待たれていることもあり、そんな時、食事の準備をしている私はプレッシャーに慌てながら準備をしています。

他にも想像していたことや想像していなかったことなどいろいろありますが、全員が揃って食事している場面や入浴後にパジャマに着替えてのんびりしている姿などグループホームならではの光景に、私も一緒にいてほんわかしてしまいます。



カラフルが開所して数か月が経った現在は、入浴の順番や食事の時間など皆さんの生活パターンもある程度出来上がり、個人の過ごし方も出来てきています。ある方は夕食前におやつを食べながらコーヒータイム、別の方は入浴後にビール。ゴクゴクと飲んで「あ～っ」という声がこぼれる姿を見ると、本当に美味しそうで、思わず私も一緒に飲みたくなります。こういう何気ない生活の場面を見る度、触れる度にカラフルが皆さんの家であることを実感します。

まだまだ出来たばかりのグループホームでいろいろと課題などもありますが「カラフル」の名前の通り、利用している皆さんの生活がもっと鮮やかに彩られ、安心して笑顔で過ごせるグループホームにしていきたいと思えます。

(田辺)

## ヘルパー便り

～初めての釣り～

Aさんは海が好きです。海に関係するもの全般に興味があります。

「鹿野さん、カツオの塩辛は食べたことがありますか？」

「えっ、カツオの塩辛ですか？」

「美味しいですよ、明日食べてみてください。」

というある日のやりとりから、私は初めてカツオの塩辛（酒盗）を買い求め、その味を知ったのでした。

そんなAさんが、時々家族で海へドライブに行くということは聞いていましたが、以前から「釣りがしたい」と言われていたので、ぜひ一緒に遊びに行きたいと思い立ち、とある漁港での堤防釣りの計画を立てました。相模原自閉症支援センターでは初めてのガイヘルということで、ヘルパー2人での対応です。

当日、新調した釣り道具を手にも海へ向かう電車に揺られます。ガイヘルで遠出をした経験は殆どないせいもあってか普段のAさんより表情が明るく、海が見える駅に着くと気分も高揚した様子でした。まずは昼食です。「イクラ丼が食べたい」と計画の時から希望があったので、イクラ丼の写真の看板のお店に入ります。丼が来るまでのおしゃべりでは楽しそうに魚の話、クモ怪獣の話、アフリカへ船で行きたい話など話題は多岐にわたります。普段は食が細いAさんですが、好きなイクラ丼は勢いよく召し上がっていました。



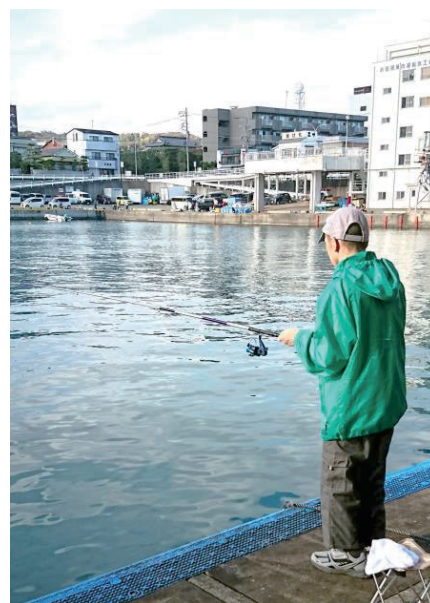
次はいよいよメインの釣りです。一応私が釣りの先生ということになっているので、仕掛けを準備し一緒に釣りを開始します。すると私の竿に魚からのブルブルした感じが伝わり、まずは一尾です。先生の面目躍如ですが、Aさんが釣らなくては話になりません。しかし、釣れない時間が続きます。少し焦りながらも、釣り日和のいい天気です。

そんな穏やかな空気の中、突然港に爆音が響きました。Aさんの大嫌いな暴走族が駐車場から出発しようとしていました。Aさんは一瞬で体を強ばらせ目を見開いています。バイクの長い列はバリバリと港を出て行き、すぐにいなくなってくれたおかげで大事には至らずにすみしました。

晩秋の漁港に、のどかな空気が戻りましたがしかし、残念ながら周りのたくさんの釣り人たちに釣れている気配はありません。ピンチです。もう残り30分しかありません。Aさんは何を思ったのか、リールから糸を出し始めました。糸がたるみ水面に浮いています。しばらくして、「もう帰ろうか」そう言って諦めリールを巻くと、驚いたことに3尾も魚が上がってきました。糸をたるませたことで底にいる魚が釣れたのです。Aさんが先生を超えた瞬間でした。「うわー！釣れたよ、3尾も釣れた！」大きなハゼで、Aさんはそれを本当に大事そうにクーラーボックスにしまっていました。

帰りの電車では、「大きなハゼが釣れた」と嬉しそうに何度も話してくれました。「今度はアナゴが釣りたい」Aさんの夢は膨らみます。

後日、釣った魚をどうしたか訊いてみると、冷凍した後、庭の焚き火で焼いたということでした。きっとまだいろいろな世界を内に秘めているAさん、この外出を皮切りに生活の幅を広げていってほしいと思っています。  
(鹿野)





# 後援会のページ



明けましておめでとうございます。昨年は社会福祉法人「風の谷」をご後援いただき有難うございました。本年もまた一層のご支援をお願い申し上げます。

昨年は幾度か地震や洪水などの厳しい災害がありました。また酷暑の夏も記憶に新しいです。日本にとって多難な一年だったと思います。しかし、一方で私達の日本は四季折々の自然の美しさは格別です。また私達は和を尊ぶ国民性を養って来ました。これらは誇りに思っているのではないのでしょうか。これからもそうした美点を大切に過ごして行きたいものです。年号が改まる今年はどのような年になるのでしょうか？不安な材料は多々ありますが、皆様にとって、そして私達にとっても平穏な日々が続く事を願って止みません。

さて、後援会主催で毎年6月に開催している地域交流バザーについて若干の内容見直しを考えています。どのような内容になるかはまだ判りませんが、工房を利用されているお子さんやお父様・お母様にできるだけ多くバザーに参加して戴きたいと思っています。バザーの場を利用して地域の皆様との交流を図り、さらなる良好な関係に発展させて行ければ幸いですし、またご家族相互の、そしてご家族と職員の方々との交流の場としても今一層活用されればと願っています。

後援会会長 堀田脩司

平成30年8月1日～平成30年11月30日現在（五十音順敬称略）

## 【新規個人】

（横浜市）岡村香奈江 作野雄一

## 【更新個人】

（相模原市）内田まゆみ 縄島健一 柳場秀雄（厚木市）藤野喜友（海老名市）有路富夫 鶴田佳子  
（町田市）上城敏明（国分寺市）岩崎秀二（盛岡市）源新和子（北九州市）上城和子

## 【更新団体】

相模原やまびこ会 創デザイン工房

## 【ご寄付・ご協力】

木下謙三 藤野孝夫 新宿小学校 新宿自治会（有）伸和トラスト

ワーカーズコープ・キュービック相模原

その他たくさんの方にご協力いただきました。ありがとうございました。

～お詫びと訂正～

2018年6月15日発行の夏号にて誤りがありました。

ご本人様ならびに関係者様、読者の皆様にご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。

（誤）津田秀隆 →（正）津田英隆



## 風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円／年間 団体会員 一口：10,000円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

<お問い合わせ先>

『風の谷後援会』事務局

〒252-0244 相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内

TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345

他の金融機関からの振込先 ゆうちょ銀行 9900 店番 029 当座 0015345